

第1回再築検討委員会 議事録

記録日：平成27年7月17日

記録者：川上幸生

団体名	一般社団法人住まい教育推進協会
開催日時	平成27年7月17日 15時～17時
開催場所	一般社団法人住まい教育推進協会北青山事務所会議室
出席者 (順不同 敬称略)	<p>委員長 一般社団法人古民家再生協会東京 杉本龍一          関東学院大学 建築・環境学部 中島正夫教授          住宅保証機構株式会社営業推進部部长 手塚泰夫          日本長期住宅メンテナンス有限責任事業組合 南山和也          一般社団法人伝統素材伝承支援協会 鳥越宣宏          一般社団法人古民家再生協会東京 会員 五十嵐冬人          一般社団法人古民家再生協会千葉市原支部 橋本武          一般社団法人青森県古民家再生協会 大室幸司          一般社団法人伝統建築防腐防虫対策協会茨城支部 檉村信一          一般社団法人住まい教育推進協会 川上 幸生</p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人住まい教育推進協会顧問 井上幸一</li> </ul> <p>オブザーバー</p> <p>一般社団法人静岡県古民家再生協会中部支部 三ツ井仁</p>
議事	<p>杉本龍一委員長が開会挨拶をおこないスタート          平成25年耐震、平成26年省エネに続き今年が3年目の再築          検討委員会、本年度は劣化対策と維持管理・更新の容易性を議          論していきます。総仕上げとなる3年目なので皆様よろしくお          願い致します。</p> <p>井上顧問より委員会の方向性について          伝統構法のリフォーム基準を作り、リフォーム瑕疵保険がかけ          れる消費者が安心できる基準作りをお願いします。</p> <p>自己紹介前に、残り4回の日程を決めた。          各回 時間は15時～17時、場所は住まい教育推進協会青山          事務所とする。</p>

委員メンバー自己紹介

事務局川上より再築検討委員会の進め方について説明

全5回で議論をしていただきまとめていただきたい。

古民家は伝統構法と在来工法が含まれているが今回は伝統構法で且つ建築基準法によらない改修（確認申請が不要なケース）での劣化対策と維持管理・更新の容易性基準をお願いします。

続いて事務局より添付資料についての説明がなされた

添付資料

- ① 国土交通省 長期優良住宅化リフォーム推進事業概要
- ② 平成25年度策定再築ガイドライン劣化対策並びに維持管理・更新の容易性基準
- ③ 古民家鑑定士が実施する古民家鑑定書
- ④ 古民家床下インスペクション講習

第1回議題

伝統構法住宅の維持管理・更新並びに劣化対策の方向性について

伝統構法の定義について

石場建て、大黒柱の存在、差鴨居などの複層的な水平部材に剛性を求めるピン接合の建物とする。

伝統構法は在来構法の比較などがされた

通気性がいい

在来構法の保険事故では外壁からの雨漏りが多いが、伝統構法は軒先が出ているため外壁のトラブルは少なく、床下の腐朽、屋根の雨漏りが多いと推測される

南側の軒の出が長い場合、地表温度50度、床下19度で自然対流で換気ができるというデータもある

	<p>寺社建築などは床下が古民家より高く、亀腹などもあり腐朽はない。根継ぎなどは行わない</p> <p>屋根床下の通気に関しては、間取りの変更時に通気が変わるかもしれない、通気の確保が重要</p> <p>中島先生が昔調査した古民家は、能登のアズマダチの古民家を調べたら、床下の状態は湿度が高いのに腐朽がなかった。使われている樹種（アテ）の耐久性と、床下が高いので地面は濡れているが腐朽しないのでは。</p> <p>和歌山南部地域は、台風対策として古民家でも床下を閉じているためシロアリ被害が多い。工夫として床組が分解でき、年に数回床組を日干しして管理する</p> <p>気象条件により古民家の構造は種類が多く地域によりかなり異なる、何を優先するのか（通気、台風、水の侵入防止）再生協会があるので全国の特徴を調べることも可能では。 →床下を閉じる 水害を防ぐやすい、虫害を受けやすい 1年に1回は点検をすることを推奨しては</p> <p>雪国の場合は雪害がある。また冬の寒気を防ぐため冬場は床下を閉じ、夏は開ける可変性がある。</p> <p>茅葺の屋根にトタンをかぶせて改修するがそれについてどう思うか。 トタンをかぶせない場合には小屋組から改修が必要でコストがかかる。トタンをかぶせても茅の通気が確保されていれば腐朽は進まない。ただ蛇などの動物が住み着くため現在の人には受け入れられない。小屋裏の換気が重要。</p> <p>古民家の場合、外部より内部の劣化の方が多い</p> <p>劣化対策での検討項目として 屋根</p>
--	---

	<p>基礎土台</p> <p>床下</p> <p>小屋裏換気など、屋根は品格法の住宅性能表示にないが加えるのか。</p> <p>維持管理に関しては住宅性能表示の配管周りそのまま持つてくる。また在来工法で示されている部分はその基準を採用し、伝統構法独特の現象をまとめる。</p> <p>インスペクション、家歴を残す事も維持管理劣化対策となる。古民家鑑定をおこない過去の履歴を記録、再築後も記録をつけていく仕組みの提供</p> <p>事務局より屋根は入れたい。 屋根、床下を中心に議論をまとめてもらいたい。</p> <p>劣化部分のチェックシート造りが必要。住宅保証機構のチェックリストをみなさんに事前配布し、伝統構法のチェック項目を検討して次回委員会に参加していただきたい。</p>
<p>決定事項</p>	<p>次回以降の日程と議題</p> <p>第2回委員会 平成27年9月25日 議題 「床下環境について」</p> <p>第3回委員会 平成27年11月27日 議題「屋根並びに小屋裏環境について」</p> <p>第4回委員会 平成28年1月15日 議題「まとめ」</p> <p>第5回委員会 平成28年2月12日 議題「最終まとめ」</p> <p>確認事項</p> <p>1、伝統構法で且つ建築基準法によらない改修（確認申請が不要なケース）での劣化対策と維持管理・更新の容易性基準を全5回でまとめる</p> <p>2、各回議論のポイントを絞る。次回は床下について議論する。</p>

配布資料

	会終了後場所を移動し懇親会を開催した。
次回開催日時	平成27年9月25日 15:00~17:00
次回開催場所	住まい教育推進協会北青山事務所会議室
次回議事内容	床下の劣化対策について

